

《タイヤパンク応急修理》のときは… クイックリファレンス

このクイックリファレンスには、一通りの使用方法が記載してあります。このシートだけをお読みいただいても使用できますが、詳しい説明や注意事項については、車両本体の取扱説明書をご覧ください。

タイヤパンク応急修理キットについて

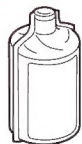
タイヤパンク応急修理キットは、パンクしたときに、ホンダ販売店まで車両を移動するために、パンクを応急修理するものです。

- タイヤのトレッド部（接地部）にクギやネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。
- タイヤパンク応急修理キットの応急修理剤1本につき、タイヤ1本を応急修理することができます。

タイヤパンク応急修理キット使用後は販売店へ行き、パンク応急修理キットを使用したタイヤの修理・交換についてはご相談ください。

キット内容

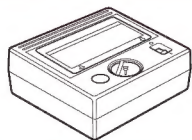
応急修理剤



注入ホース



コンプレッサー



小部品のビニール袋



応急修理剤について

●有効期限

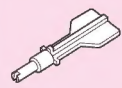
有効期限は製造より6年間です。
有効期限は容器に表示されています。

●使用環境

外気温が下記以外のときは使用できません。
使用環境温度…-30℃～+60℃
0℃以下の低温状態では応急修理剤の粘度が高くなり、注入作業がしにくくなります。車室内で暖めると注入作業が楽になります。

※これらの部品は、
ビニール袋に入っています。

バルブコア回し



注入済みシール



速度制限シール



応急修理剤を使用する前に

タイヤパンク応急修理キットの応急修理剤を使用する前に、
タイヤの損傷状態を確認します。

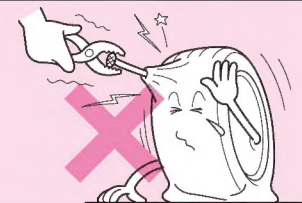
応急修理が可能な場合

トレッド部（接地部）にクギやネジなどが刺さった程度であれば、応急修理できます。



アドバイス

このとき、タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かずに応急修理してください。抜いてしまうとタイヤパンク応急修理キットの応急修理剤では応急修理が不可能になる場合があります。



応急修理が不可能な場合

以下のときは、タイヤパンク応急修理キットの応急修理剤では応急修理できません。
ホンダ販売店または、JAFなどにご連絡ください。

▶ほとんど空気のない状態で
走行してタイヤが損傷している時



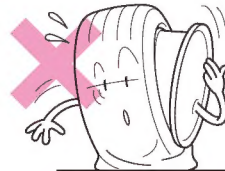
▶サイドウォールの
亀裂・損傷によるパンク



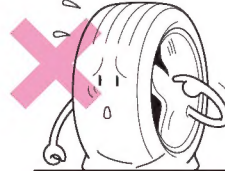
▶トレッドの4mm以上の
切り傷や刺し傷がある場合



▶タイヤとホイールが
明らかに外れている時



▶ホイールが破損している時



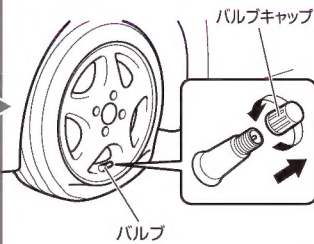
▶2本以上のタイヤがパンクした時
※応急修理剤1本につき、
応急修理できるタイヤは1本です。



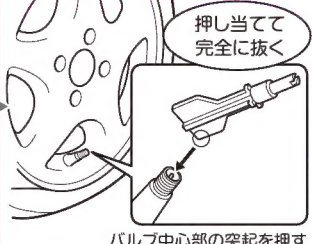
1 パンクに気づいたら…



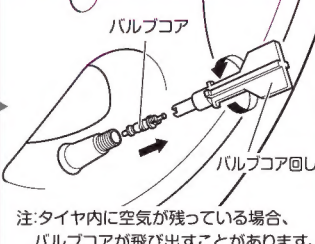
2 バルブキャップを外す



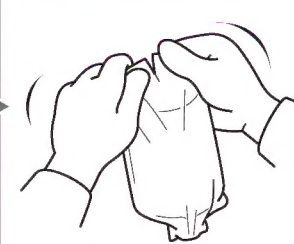
3 コア回しの突起部分を押し当て空気を抜く



4 バルブコアをバルブコア回して抜き取る



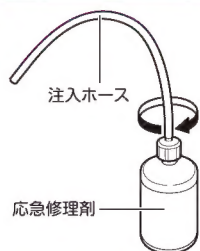
5 アルミ袋を破る



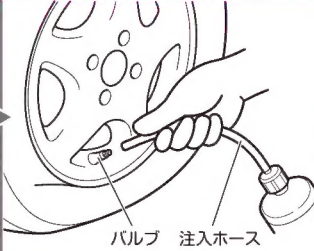
6 ボトルをよく振る



7 注入ホースをボトルにねじ込む



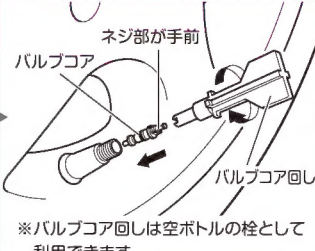
8 注入ホースをバルブに差し込む



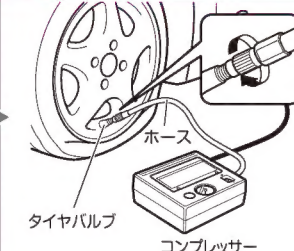
9 修理剤をタイヤに注入する



10 バルブコアをコア回してねじ込む



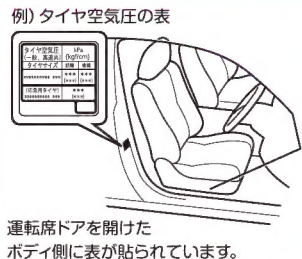
11 コンプレッサーのホースをバルブにねじ込む



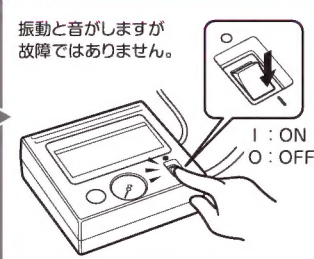
12 電源プラグをアクセサリソケットに差し込む



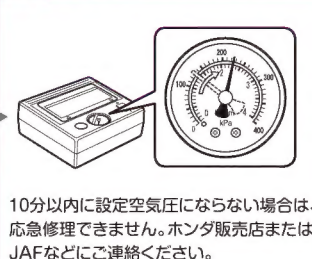
13 設定空気圧を確認する



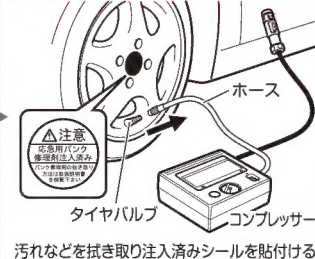
14 コンプレッサーのスイッチをONにする



15 設定空気圧まで空気を入れる



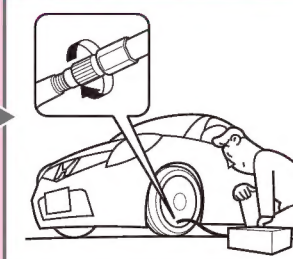
16 コンプレッサーを外して収納



17 約10分間または約5km走行する



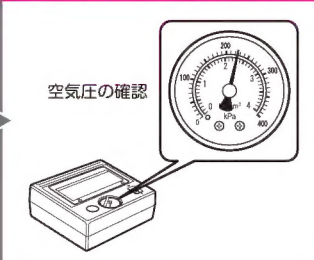
18 停止後、再度コンプレッサーを接続する



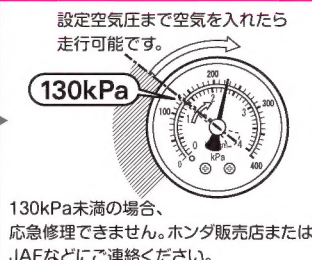
19 電源プラグをアクセサリソケットに差し込む



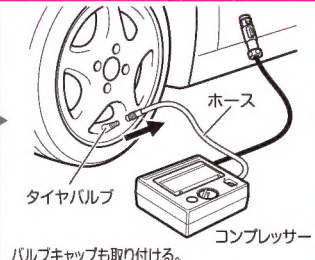
20 圧力計で空気圧を確認する



21 130kPa以上の場合、設定空気圧まで空気を入れる



22 コンプレッサーを外して収納



23 速度制限シールを貼る



24 ホンダ販売店に移動する

